



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『一切誓いを立ててはならない』

聖書(マタイ福音書 5章 34節)

牧師 河合裕志

これは一寸困った言葉、あるいは大いに困った言葉。だって教会では誓いが行われているから。結婚式の時、新郎新婦に「誓約」が求められる。「誰々、あなたはこの姉妹(あるいは兄弟)と結婚し、神の定めに従って夫婦となろうとしています。あなたは、その健やかな時も、病む時も、これを愛し、これを敬い、これを慰め、これを助け、そのいのちのかぎり、堅く節操を守ることを約束しますか」。こう牧師より問われて「約束します」と答えなければならない。このような誓いが古くから行われて来ている。しかしこれってイエスの言葉に反するのじゃない? 誓いを立てるな、と言っているのだから。

これは難題、どうやって切り抜ける? うまい考えはある? そもそもイエスはなんだってこんなことを言う。イエスはこの言葉の前にこう述べている。『あなたがたも聞いている通り、昔の人は、「偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ」と命じられている。しかし、わたしは言うておく』。

昔はしばしば誓いが行われていたよう。その際自分の誓いが誠であることを示すために主(神)にかけて誓うということがなされた。主の前で、主を証人として、従っ

て約束に違反したら主より罰を受けてもよい、と。それはとても真剣なもの。

ところが現状はどうであったか。偽り誓うということがしばしば行われていたよう。簡単に主の名を出し、簡単に約束を反故にする。この現状にイエスは我慢が出来なかったのでは? あまりにも主の名が安安と用いられている、利用されている。最初から相手をだまそうとして主の名を口にしていくようにも思われる。これってモーセの十戒の第3戒「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」に違反しているのではないか。イエスにはこんな具合に思われて来て、これはもう誓いなんていっそのことするな、ということになったのでは?

イエスにとって大事なことは主の尊厳が守られること、主への畏敬。そして自分の語る言葉、約束の言葉に責任を持つこと。いったん約束したことは守り通すこと。この二点をイエスは回復したかった。

それは本来の誓いの回復と言ってよいかも。なのでこの二点を覚えての誓約であれば許されるのでは。多分こう受けとめてキリスト教結婚式は存続して来たのではないだろうか。そしてこの二点はどんな場合でも大切なこと。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時